



いつまでも住み慣れた地域で暮らすために

理事長 吉田直己

かつて知的障がい者の寿命は、平均より短いと言われていました。特にダウン症は1970年頃までは20歳位が寿命と言われていました。ところが医療の発達により、近年の寿命は60歳位と言われています。世間では2050年には超高齢化社会が到来すると言われてはいますが、知的障がい者の超高齢化社会も、あと10年、20年後には到来する事になります。国は、知的障がい者も65歳になると介護保険サービスを優先する方向で動き始めています。例えば、現在は就労継続支援B型に通所してご自宅にお住まいの方が、グループホームを利用しようとしたら、障害福祉サービスではなく介護保険サービスの老人ホームや特養等を利用して下さいと言われる可能性が考えられます。しかし、現実には高齢者施設の現場からは、知的障がいの事がよく分からない、認知症とどう違うのか等、不安の声が聞こえてきます。私達、障がい者支援の従事者にとっても、高齢知的障がい者の支援？介護？に関して未知の世界に遭遇しています。地域の施設では対応できないから、高齢になったらやむを得ず遠方の入所施設へ入所するしかないという、地域移行とは逆行した動きが、今後出てくるかもしれません。その為にあかねの会は、彼らが住み慣れた地域でこれからも暮らし続ける為に、介護の現状や介護保険サービスの制度等、他法人の高齢者施設と連携して、勉強会を始めました。高齢者施設と障害者施設は視点が違う等、勉強会を通じて改めて感じています。しかし、私達は介護は専門外だから～という訳にはいきません。あかねの会の理念は、彼らが地域社会の一員として当たり前、そして自分らしく過ごせるようにしていくことです。その実現に向け、あかねの会は具体的に行動していこうと計画しています。

『生きる力を育てる』～自立度(LQ)評価とその育て方～

大変、お待たせしました。書籍『生きる力を育てる』が完成しました。A4判144ページの大作です。障がいがあっても地域で暮らし続けるために必要な生きる力を117項目に分類しました。その方の状態をアセスメント(評価)する評価表と、項目毎にその力を育てる方法を詳細に記述しました。段階を追ってスモールステップで支援出来るようになっていきます。定期的に評価できるよう、評価表は別冊になっています。お子さんだけでなく、成人の方でも成長できます。誰かのために何かの役に立つ人に育つよう、信じ続けて取り組んでいきましょう。あかねの会も支援し続けていきます。

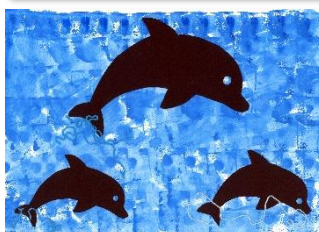
*お問合せ:各事業所またはあかねの会事務局へ TEL:03-3577-7421

生きる力を育てる
～自立度(LQ)評価とその育て方～社会福祉法人 あかねの会
あかねの会 自立度(LQ)評価とその育て方

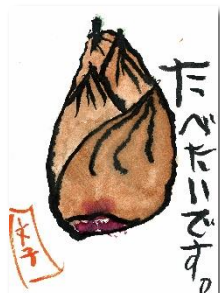
吉田由紀子著

1部 1000円(税込)

各部だより



令和5(2023)年あかねの会カレンダーの絵が決まりました



今年もカレンダーの絵にご応募いただきまして、ありがとうございました。お一人おひとりの個性が発揮された力作ぞろいでしたが、厳正に13枚を選定いたしました。あかねの会のカレンダーも令和5年で5年目です。すっかり定着してお馴染みの顔ぶれも出てきましたが、新しいアーティストの登場も期待しています！来年も引き続き募集しますので、まだ応募したことがない方は、ぜひ挑戦してください。

☆令和5(2023)年あかねの会カレンダーは

11/18(金)心の鐘コンサートより販売を開始します。